

### 第3節 英語

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 中学校外国語の目標

中学校学習指導要領において、外国語科の目標は次のように示されている。

###### 第9節 外国語 第1 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

平成20年3月に告示された新学習指導要領においては、中学校外国語の目標は、次のように改訂されている。

###### 第9節 外国語 第1 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

新学習指導要領の外国語科の目標も、これまでと同様にコミュニケーションを養うことであり、そのためには次の三つの事項を考えて指導する必要がある。

- ① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

中学校では外国語学習の導入の段階で、音声によるコミュニケーションを重視している。しかし、学習指導要領の改訂により、小学校で外国語活動が導入され、音声面を中心として外国語を使ったコミュニケーション能力の素地が育成されることになった。その上に立って外国語科では、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つの技能（以下4技能と呼ぶ）を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することが大切となる。

文法については、新学習指導要領に、「英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるように工夫すること。」と示してある。既習の文法事項と新しく学んだ文法事項を比較してまとめて説明したり、英語と日本語の違いを比較して整理するなど、効果的に指導できるようにすることという意味合いである。また、文法はコミュニケーションを支えるものとしてとらえていくことも大切である。

さらに、「聞くこと」や「読むこと」から得た知識等について、自分の考えを人に伝えられるよう、「話すこと」や「書くこと」を通じて「発信」できるように、4技能をバランスよく総合的に育成する必要があると考えられる。

③については、①と②の目標と当然のことながら結びついていて、生徒にコミュニケーション能力を身に付けさせるために、言語や文化に対する理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりする必要があるし、逆に①や②を通して、コミュニケーション能力が身に付いてくる。

##### (2) 学ぶことへの関心・意欲を高める指導の工夫

学ぶことへの関心・意欲を高める指導として、授業形態や指導法の工夫が考えられる。

生徒に基礎・基本を身に付けさせなければならないことから、生徒の理解の度合いを教員が把握しておかなければならない。また単調な授業から脱却するため、多様な活動を取り入れ、生徒自身に積極的に授業に参加させなければならない。

## ア 授業形態

日本人教員同士がチームティーチングを行い、2人で授業を行うことにより、1時間の授業内に4技能をバランスよく取り入れて効果的に授業を行うことができる。4技能を総合的に活用することは当然のことかもしれないが、1時間の授業の中ですべてを使う活動にできない場合もある。そこで複数でチームティーチングを行うことにより、効率のよい授業を行うことができる。

また、生徒一人一人を複数の目で見ることによって十分に生徒の実態を把握できることにもなる。教員一人が板書している間に、もう一人の教員が生徒の状況を見て、質問に応じたり、生徒の理解度をつかんだりすることができる。そして生徒一人一人の個性や特性を理解し、それに応じた指導方法を工夫し、改善することができる。

さらに、指導案の作成や授業を進める上での課題についても複数ということでも多角的に見ることができ、改善していくこともできる。リスニングについてCDなどでもできるが、会話文では教員が役割分担して、強弱をつけたり、説明を加えたり、工夫して読み進めることもできる。ALTがいるときにはさらに変化に富んだ授業を行うことができる。

ただし、チームティーチングは複数ということのために、授業に一貫性が欠けたり、説明の仕方の違い等で生徒が混乱を起こしたりしないように、授業前に教員どうしが十分に進め方や役割について話し合っておかなければならない。

## イ 指導法の工夫

4技能をバランスよく授業に取り入れるためには、授業の展開方法について考えておかなければならない。授業のウォーミングアップや前回の復習として、CDやALTのスピーチあるいは、チャンツを使って、「聞くこと」や「話すこと」を行う。モデルリーディングの復唱やロールプレイのリーディングのときにも、ただ単に座って読むだけでなく、立って読んで体を使うことでより「読むこと」の活動の参加意識をもたせる。重要な表現や文法事項については「書くこと」によって理解を深めさせ、より速く、より正確に書けるように慣れさせる。

授業の展開の中で、生徒同士にペアワークを行わせる。「読むこと」や「書くこと」の活動をさせる中で、お互いの間違いを指摘し合ったりして、間違いに気付かせたり、相手に教えることでさらに自分の学習に対する理解を深めさせたりする。

予習・復習については、予習することによって、いかに授業が分かりやすくなるか、復習することによって、いかに学習成果が確かなものになるか、などの意味合いを理解させることも大切であるし、また繰り返し学習を重ねることの必要性も伝えていかなければならない。

### (3) 学ぶことへの関心・意欲を高める教材

新学習指導要領では、教材について次のように示されている。

#### 3 指導計画の作成と内容の取り扱い

(2) 教材は、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能

力を総合的に育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。

この後には、「生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化を持たせてとりあげるものとし」とあり、さらに、「広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。」と示してある。教科書等をより理解しやすくするために、視聴覚教材を多く利用したり、事前資料で教科書の内容を興味深くさせたりして、活動の手だてになるようにする必要がある。

#### (4) 学ぶことへの関心・意欲を高める評価の在り方

生徒の評価においては、外国語学習の習得の程度を的確に評価しなければならない。コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、言語や文化についての知識・理解の4点を評価の規準とする。しかし、学習指導要領の総則にあるように、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすように」しなければならない。

日本人教員同士のティームティーチングでは、生徒の状況をよりの確に把握することができると考えられる。また、宿題やノートやハンドアウトなどの提出物の点検や採点についても複数ということで、時間が半減でき、より正確に、より多くのフィードバックを行うことができる。また、アンケートをとることによって、生徒の実態や関心などを把握し、それに応じた教材研究や資料作りもできる。学習や活動に対しての正しい評価や迅速な助言や指導によって、生徒の学習に対する関心・意欲を高めることにつなげることができると考えられる。

#### 参考・引用文献

- (1) 文部省『中学校学習指導要領』平成10年
- (2) 文部省『中学校学習指導要領解説－外国語編－』平成11年
- (3) 文部科学省『中学校学習指導要領』平成20年
- (4) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』平成20年

## 2 事例

### (1) 研究の仮説

英語学習の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）の活動を総合的にバランスよく取り入れ、英語の基礎的な能力を確実に培うことにより、学ぶことへの関心・意欲は高まる。

中学校学習指導要領（平成20年3月告示）の中で、外国語の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」と示されている。日本のようなEFL(English as a Foreign Language)の環境においては、学校以外の場所で英語を使う場面は少なく、TENOR; Teaching English for No Obvious Reason (Abbot, 1981, Sifakis, 2003)の問題も考えなければならない。生徒が積極的に学習に取り組むためには、机上の学習だけではなく、実際に自分の身体を使って、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの活動を行い、授業に参加しているという意識をもたせることが大切であると考えた。コミュニケーションを図るためにはこれらの聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの能力を素地として身に付けなければならない。地道な練習の積重ねを通して基礎的な力がつくことを実感させ、コミュニケーション活動を通じて、英語は自分自身を表現する手段であることを体験させることが、生徒の学習の意欲を高めることにつながると思われる。そこで授業や家庭での学習において、これらの四つの活動をできるだけ取り入れた指導を展開するため、仮説を設定した。

### (2) 学ぶことへの関心・意欲を高めるための指導の工夫

第1学年の生徒にとって、英語は初めて学ぶ新鮮な教科である。意欲的に学習に取り組む生徒が多い一方、見慣れない文字を読んだり、書いたりすることに閉口する生徒もいる。この英語学習の初期に学習の基礎を身に付けさせるために次のような指導の工夫をした。

#### ア 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの活動

どの教科でも大切であるが、目で文字を見て、耳で聞き取り、口から声を出し、手で文字を書くという自分の身体を使った活動は、英語の学習でも重要である。実際にこれらの活動をするとなしに英語の能力が身に付くことは有り得ない。そこで授業の中にできるだけ多くこれらの活動を取り入れるよう配慮した。

### (7) 具体的な活動内容

#### a 聞くこと

- ・ CDやALTのスピーチを聞いてリスニング練習をする。
- ・ 英語の歌やチャンツを聞く。

#### b 話すこと

- ・ 授業の始めのあいさつで既習の文や文法事項を使って質疑応答する。
- ・ 授業で習った基本文型をもとに友達と会話練習をする。
- ・ ALTや教員と会話の練習をする。

#### c 読むこと

- ・ モデルリーディングの復唱やロールプレイのリーディングの練習をする。

- ・個々に本文を3回ずつ音読する。

#### **d 書くこと**

- ・教員が示す本文中の文を3回ずつ書く。
- ・既習の文法事項を使って作文を書く。

#### **(イ) 考慮した点**

特に読むことでは、しっかり声を出して音読するように指導した。音読は視覚言語を音声言語化する活動である。言語能力を高めていくには毎日繰り返して何度も練習することが肝心である。目で見た文字を実際に声に出して自分の耳で聞くという音読の練習は重要である。家庭での自主的な練習をやりやすくするためにも、授業の中で、できるだけ多くの音読の練習を行うように工夫した。個々の音読の練習では、生徒が一斉に起立し、1回読むごとに立っている方向を変えていく三方読みを取り入れた。この三方読みの利点は、起立して読むことにより、音読の活動に参加するという意識を生徒に与えることと、方向を変えながら読まずことにより、確実に3回読ませることができるということである。また、英文を書くことに慣れていない第1学年の生徒が少しでも多く、速く、正確に書くことができるように、重要な文を3回ずつ書く活動も取り入れた。

#### **イ 家庭学習の習慣**

英語の習得には日々の練習が欠かせない。授業の中だけで英語の学習に触れるのではなく、家庭での学習の習慣を身に付けさせるために、課題の内容を工夫した。

#### **(7) 具体的な家庭学習の課題**

- ・予習ノートに新出単語と語句の意味を調べて書く。基本文と本文を写す。
- ・練習ノートに本文を5回書き写す。
- ・ワークブックで復習する。
- ・単語テストの練習をする。
- ・夏休みや冬休みなどの休業中には、毎日音読の練習をする。

#### **(イ) 考慮した点**

予習をして授業に臨めば、学習している要点を把握しやすく、授業への参加意識も高まると思われる。予習を確実に進めるために予習ノートの書き方を示し、授業で確認をした。基本的な文法の定着のため、新出単語は品詞も確認させた。英語は母語に比べ、読み書きの量が圧倒的に少ないので、家庭においても英語に触れることができるように、5回の書き写し練習や音読の練習を課した。単元の学習が終わるごとに練習ノートを提出させ、点検を行った。

#### **ウ ティームティーチングによる授業**

週3時間の授業のうち2時間をティームティーチング(どちらも日本人の教員)で行う。1人が主に授業を進め、もう1人は板書や机間指導などに当たる。

#### **(7) ティームティーチングによる具体的な指導方法 (2人の教員をA・Bとする)**

- ・Aが基本文型を説明し、Bが板書する。
- ・Aが板書している間に、Bは生徒の予習を確認する。
- ・Aが本文を読む練習を指導している間に、Bは本文を板書する。
- ・対話文を読む練習の時には、ロールプレイでモデルリーディングをする。
- ・生徒のノート点検や単語テストの採点をA、Bが分担して行う。

#### (4) 考慮した点

毎時間、授業内容について打合せを行い、役割分担を確認して、授業がスムーズに展開できるように心がけた。授業後は内容の点検や生徒の学習の様子について話し合い、より効果的に授業を進めることができるよう努めた。2人の教員で机間観察ができるので、生徒の予習の確認や、学習の進行具合などをより丁寧に行うようにした。また、ALTが共に授業を行うときは、教室に3人の教員がいることを利用して、できるだけ対話練習を取り入れ、すべての生徒が教員と練習できるように工夫した。

#### (3) 実践事例

##### ア 単元名 Unit7, Part1 カナダの学校 (東京書籍 NEW HORIZON English Course 1)

##### イ 単元について

- 本単元では、カナダの中学生とのテレビ会議を通して、カナダの中学生の学校生活や文化についての情報を得る設定となっている。ITの技術で外国の情報の取得や交流が便利になった今日、コミュニケーションの手段としての英語を使用する機会はだれにでも訪れる。カナダの学校生活を知ることを通して異文化に興味をもたせるとともに、英語が相手と意思疎通できる言葉であることを再認識させたい。ここでの対話文の中に、人物の紹介、時刻や天気、登校曜日や授業時間、放課後の活動など身近な学校生活についての話題が取り上げられている。これらを学習して、自分たち自身の学校生活を表現する力も付けさせたいと考える。
- 第1学年の生徒は落ち着いており、真面目に学習に取り組んでいる。予習として英語の課題に取り組むことも定着してきているが、まだまだ受け身の学習態度である。与えられた課題には取り組むが、英語を通して自分を表現したり、コミュニケーションを図ることに対してはあまり積極的ではない。外国語教育の改善(中央審議会 経過報告平成18年2月13日)の中で発信力の重視が示されているように、英語は単なる教科ではなく、コミュニケーションの手段であるという認識を育てていきたい。

##### ウ 単元の目標

- (7) だれであるか尋ね、それに答えることができる。
- (4) 現在の時刻や天気について尋ね、それに答えることができる。
- (5) 本文の内容を聞いたり読んだりして理解することができる。
- (1) 基本文の表現を使い、正しく書くことができる。

##### エ 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①学習した表現を使って、積極的に対話練習に取り組む。 ②学習した表現を取り入れ、自分の考えを表すことができる。	①本文を正しく読むことができる。 ②基本文を使った疑問文や応答の文を正しく書くことができる。	①基本文の疑問文や応答の文を理解することができる。 ②本文の内容を理解することができる。	①本文を通し、カナダの学校や文化についての情報を得る。 ②時差について理解できる。

#### (4) 学習の流れ

時	ねらい	学習活動	評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Who ...?の疑問文と応答の文を理解し、表現する。(本時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本文の説明を聞き、理解する。</li> <li>新出単語、語句を発音し、意味を理解する。</li> <li>本文を聞き、理解する。</li> <li>本文を音読する。(モデルリーディングと音読プリントを個人で3回読む。)</li> <li>基本表現を使って、ペアで対話練習をする。</li> <li>テレビの画像を見て、基本表現を練習する。</li> <li>学習内容を確認しながら、音読プリントに文を3回ずつ書く。</li> </ul>	ウの①、② 活動の観察  イの① 活動の観察 アの① 活動の観察 イの② 活動の観察
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>What time ...?の疑問文と応答の文を理解し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に学習した本文を音読する。(モデルリーディングとロールプレイ)</li> <li>基本文の説明を聞き、理解する。</li> <li>新出単語、語句を発音し、意味を理解する。</li> <li>本文を聞き、理解する。</li> <li>本文を音読する。(モデルリーディングとペアのロールプレイで練習する。)</li> <li>教師が示す時計を見て質問と応答の練習をする。</li> <li>学習内容を確認しながら、音読プリントに文を3回ずつ書く。</li> </ul>	イの① 活動の観察  ウの①、② 活動の観察 イの① 活動の観察 アの① 活動の観察 イの② 活動の観察
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダの中学生の学校生活について(登校曜日や授業時間など)について理解する。</li> <li>学校生活について尋ねたり、答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界各地の時刻と天候のCDを聞きリスニングの練習をして前時の復習をする。</li> <li>新出単語、語句を発音し、その意味を理解する。</li> <li>本文を聞き、理解する。</li> <li>本文を音読する。(モデルリーディングとペアのロールプレイで練習する。)</li> <li>自分たちの学校についての質問に対する答えの文を書く。</li> <li>学習内容を確認をしながら、音読プリントに文を3回ずつ書く。</li> </ul>	ウの①、エの②の活動観察 ウの①、② 活動の観察 イの① 活動の観察  イの② 活動の観察
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダの中学生の学校生活(放課後の活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出単語、語句を発音し、意味を理解する。</li> <li>本文を聞き、理解する。</li> </ul>	ウの①、② 活動の観察

とドリームキャッチャーについて知る。 ・学校生活について尋ねたり、答えたりする。	・本文を音読する。(モデルリーディングと、ペアのロールプレイで練習する。) ・自分たちの部活動についてペアで対話練習をする。 ・学習内容を確認しながら、音読プリントに文を3回ずつ書く。 ・自己紹介文と友達の紹介文を考え、プリントに書く。	イの① 活動の観察 アの① 活動の観察 イの② 活動の観察 アの② プリントのチェック
---	---	--

## (5) 学ぶことへの関心・意欲を高めるための指導の実際

### ア Teaching Plan

1 Date: Wednesday, October 22, 2008

2 Class: 1-3 (16 boys, 18 girls ), Kashibakita JHS

3 Textbook: New Horizon English Course 1 (Tokyo Shoseki), Unit7, Part1

4 Objectives:

- (1) To teach the students the interrogative sentence: "Who is …?"
- (2) To teach the students the new expressions and grammar points in the text.
- (3) To have the students become familiar with how to ask and answer questions using "Who is…?"

5 Allotment: 1st period Part 1 (This lesson)

2nd period Part 2

3rd period Part 3

4th period Part 4

6 Teaching Procedure:

Procedure (Time)	Teachers' Activities	Students' Activities	Perspectives of Evaluation
1 Greeting (1min.)	Greet and ask some questions. ・ How are you? ・ What day is it today?	Greet and answer the questions.	
2 Warm-up (3min.)	Play a CD and have the students sing a song. (English chants)	Sing the song with the CD.	
3 New material 1) Key sentence (10min.)	○ Explain the key sentences. ・ Who is …? - He is …. ○ Play the CD and have the students practice	● Listen and write down the explanation and grammar points. ● Listen to the CD and repeat after the	Attitude and comprehension concerned with (1) Observation of the students during



	the key sentences.	CD.	the activities
2) New words and dialog (3min.)	○Play the CD.	●Listen to the CD and repeat after the CD.	
3)Explanation of the dialog (10min.)	○Explain the meaning of the dialog.	●Listen and write down the explanation.	Attitude and comprehension concerned with (2)
4)Reading (8min.)	○Hand out a dialog sheet. Read the model dialogand have the students repeat.	●Repeat after the teachers.	
a. Model reading	○Have the students read the dialog three times.	●Read the dialog.	
b. Individual reading			
5) Activity (10min.)	○Have the students make pairs and practice the following conversation. A: Do you know ...? B: Who' s ...? A: He/She is a ...? ○Show the students some pictures and ask who they are.	●Practice the conversation.  ●Answer the questions.	Attitude and comprehension concerned with (3)
4 Consolidation (5min.)	○Review the key sentences and look back on today' s lesson.	●Write down the key sentences on the handout.	
Giving the students homework	○Tell the students to write the dialog five times in their notebooks and prepare for the next lesson.		

Materials: CDs, Pictures, Handout

## イ 教材の工夫

### (7) 視聴覚機器の利用

CDを聞いて歌ったり、読んだりする練習だけでなく、テレビに写真を映して人物について尋ねたり、説明したりする練習をした。

### (4) 音読用のプリント

教科書の各パートの本文を書いたプリントで音読の時に利用した。本文の下の部分は空欄になっており、そこへ読んだあとに教員が指示する文を3回ずつ書いた。

## (6) 成果と課題

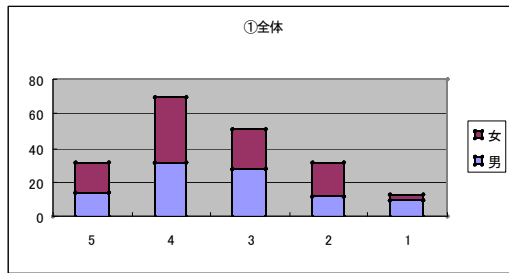
### ア アンケート結果と考察

仮説で示した「4領域(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)の活動をバランスよく取り入れ、基礎的な能力を確実に培う」ことの実践により、生徒の学ぶことへの関心・意欲が高まったのかどうかを確かめるために、11月に英語に関するアンケート調査を行った。生徒の英語に対する興味・関心や、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことへの意識や家庭での学習について尋ねた。その結果、次のようなことが分かった。多くの生徒は英語に対する興味・関心があり、特にALTとの授業を好んでいる。読むこと、書くことは得意であると思っている生徒は多いが、聴くこと、話すことについては、得意であると思っている生徒は少ない。特に、聴くことについては家庭でCDやラジオを聞くという自主的な学習活動を行っている生徒は大変少ない。このことからリスニングのCDや英語の歌、ラジオやテレビの英語学習の番組について授業で紹介したり、リスニングの練習の仕方などを示したりして、家庭においても聞く活動に取り組むことができるような工夫が必要である。話すことを苦手だと思っている生徒が多いが、授業での会話練習はしっかり取り組んでいると答えた生徒が多かった。自分のことを話したり、友達の意見を聞いたりする会話練習の活動は英語を自分のものとして身に付ける大切な機会であるので、練習の内容や方法、手段を吟味して多く取り入れていきたい。読むことについては、得意であると思っている生徒が多い。このことは授業で音読を多く取り入れた成果であると思われるので、今後も音読の活動を継続していきたい。書くことについては、授業や宿題に書く機会を多く設けた結果が表われていると思われる。始めは5回の書き写し練習に不満を示す生徒も見られたが、回を重ねるごとに書き慣れ、きれいに書くことができる生徒が増えてきた。量をこなすことが、書くことへの自信につながったと推測される。宿題をしっかりとしていると答えた生徒が多く、宿題をする習慣が定着していると思われる。1学期の始めは予習をしてこなかったり、間違っ書いていたが、くり返し指導をしていくことで、今ではほとんどの生徒が予習をして授業にのぞんでいる。ティームティーチングにより、毎回宿題の確認を行うので、生徒の宿題をするという意識の高まりにつながったと思われる。

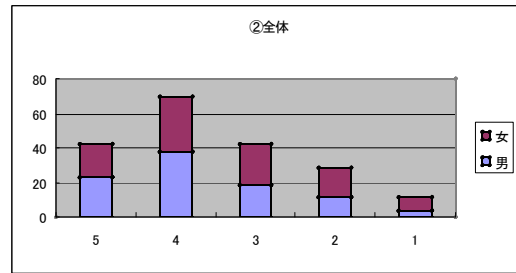
#### 資料 英語に関するアンケート (H20. 11月実施)

5 強くそう思う	4 少しそう思う	3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	

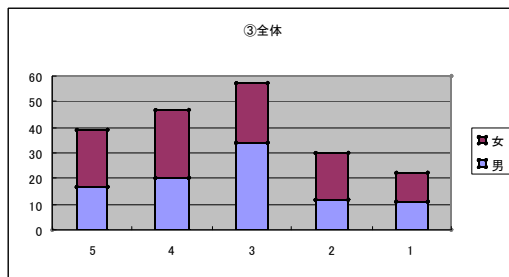
①英語を使って外国の人々とコミュニケーションをしたいと思います。



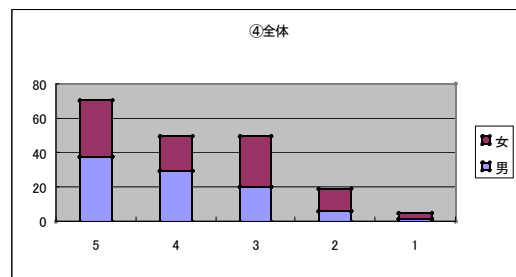
②将来のために(進学や仕事など)英語を一生懸命勉強したいと思います。



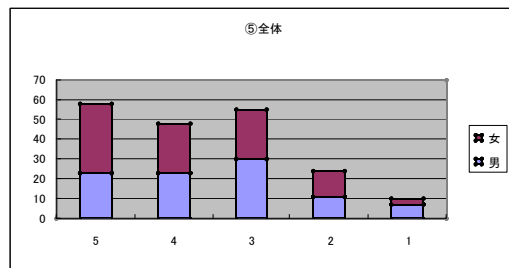
③英語を勉強することが好きです。



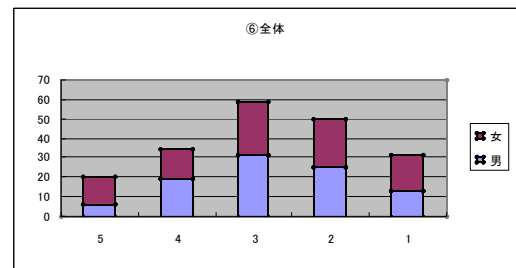
④外国人の先生(ALT)と英語を勉強することは楽しいです。



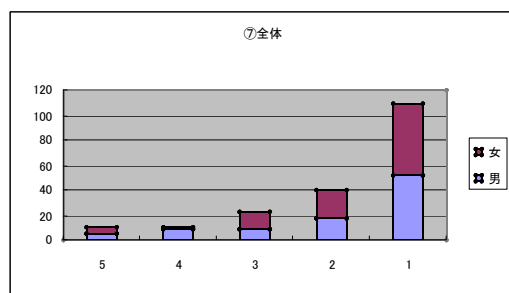
⑤家で英語の宿題をしっかりとしています。



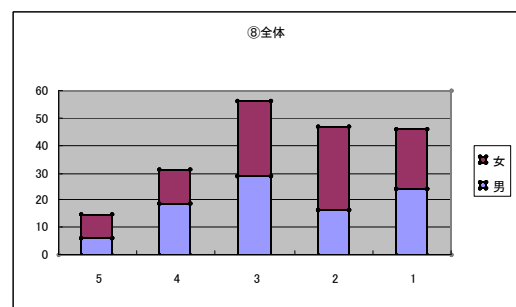
⑥英語を聞くことは得意です。



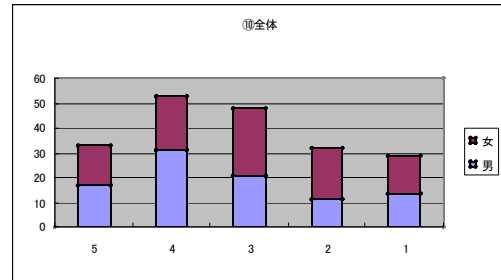
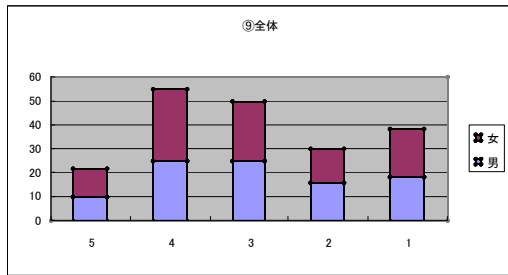
⑦家でCDを聞いたり、ラジオで英語番組を聞いたりしています。



⑧英語を話すことは得意です。

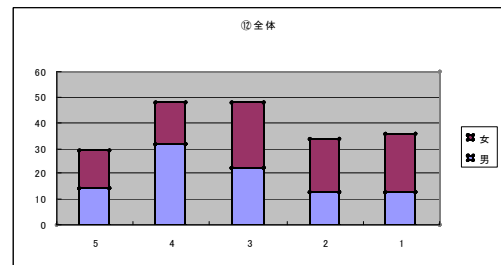
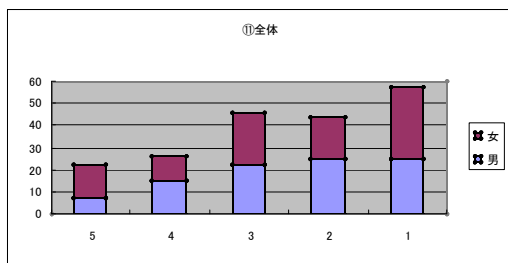


⑨授業で友達と会話練習をしっかりとっています。 ⑩英語を読むことは得意です。

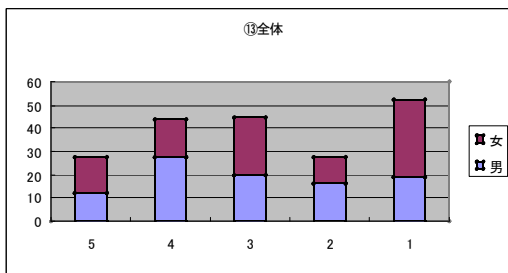


⑪家で声を出して教科書を読む練習をしています。

⑫英語を書くことは得意です。



⑬家で宿題以外に単語や英文を書く練習をしています。



## イ 今後の課題

この研究を通して、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの活動に取り組むことの大切さを改めて実感した。音読と5回の書き写し練習を徹底することにより、生徒の読むこと、書くことについての意識が高まったが、聞くこと、話すことに関しては十分取り組めていなかったため、生徒が苦手意識をもつという結果となった。授業では毎回4技能の活動を取り入れるように工夫したが、EFL環境で家庭においてこれらの活動を練習することは難しいと思われる。特に、聞くことと話すことの練習を家庭で行うことができるような方法を考えて、生徒に示していく必要がある。また、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの活動は身体を通して行うものであるため、諸感覚を刺激する視聴覚教材を工夫していきたい。さ

らに意欲的に学習に取り組ませるため、本文の書き写しなどの受け身的な活動だけでなく、自分自身のことを表現する発信型の練習の機会をこれからは多く取り入れていきたい。将来、英語を活用したいと考える生徒は多いので、さらに表現の力を伸ばしていくためにも、あるテーマのもとに作文を書くことや、スピーチなどの活動を授業や家庭での学習に取り入れることを考えている。

この研究の取組ではチームティーチングの果たす役割は大きかった。2人の教員で指導にあたることによって、生徒を積極的にコミュニケーションに参加させることができ、1人の教員だけでは成しえなかった細かな指導ができたと思われる。1名が全体を指導している間に、もう1名が生徒の学習の度合いを確認することができ、どこで生徒がつまずいているのか、どこで間違いやすいのかなど、つぶさに生徒の様子を観察することができた。教員同士の協力がチームティーチングでは必要であり、授業の打合せや、教材作り、課題の点検などについて、常に意思疎通をはかり指導にあたってきた。授業をお互いが観察し、話し合えるチームティーチングを行うことは教員にとって指導力向上のよい機会である。

‘The best teachers are those who actively seek to grow and develop their knowledge and expertise continuously throughout their career.’ (Osler and Flack, 2000)

ここに述べられているように、生徒が学習に対する関心・意欲を高めていけるような指導を工夫し、自分自身もいつも学ぶ姿勢を忘れずに研究を積み重ねていきたいと考えている。

## 参考文献

- (1) 文部科学省（平成20年3月）『中学校学習指導要領』
- (2) 中央審議会経過報告（平成18年2月13日）『外国語教育の改善』
- (3) Osler, J. & Flack, J. (2000) Chapter 6: The Teacher as a Pro-active Professional’, in *Learning*
- (4) Sifakis, N. C. (2003) ‘Applying the adult education framework to ESP curriculum development: An integrative model’, *English for Specific Purpose*, 22(2), 195-211.